

Carbon Frontier Magazine

カーボンフロンティアマガジン

第 40 号(2026 年 8 月号)

目次

カーボンフロンティア機構からのお知らせ

- 既設の石炭利用設備を活用したバイオマス燃料導入のご検討支援
- カーボンプライシング入門 (29)を当機構 HP に掲載
- 開催報告: 夏休みこども石炭実験教室
- 【第 35 回クリーン・コール・デー国際会議・資源の安定供給と脱炭素化シンポジウム 2026 開催迫る(登録〆切:9 月 1 日 12 時) !】

今月の Topics

- IEA 2026 年電力中間報告書について

海外ニュース

- 豪州: BMA の今後の展望は?
- 豪州: Duratec 社が NSW 州に Orica 社の水素ハブを建設へ
- 豪州: フォーテスキュー社のクリスマス・クリーク試験プラントで、初のグリーン鉄を生産
- 豪州: クーラガン島で初のストライキが発生
- 中国: 中国が石炭産業発展第 15 次五カ年計画を発表
- カナダ: 石炭火力発電はユーコン準州のエネルギー不足を緩和する可能性がある
- トルコ: 科学者たちは AI を活用して、より効率的な炭素回収材料を見つけ出している
- 世界: 海外の Coal & Energy 会議情報
- グローバル: 世界粗鋼生産(2026 年 7 月)

石炭価格推移

日本の炭種別石炭輸入量統計

アンケートへのご協力お願い

独り言

カーボンフロンティア機構からのお知らせ

■ 既設の石炭利用設備を活用したバイオマス燃料導入のご検討支援

JCOAL では、既設の石炭利用設備を活用したバイオマス燃料導入のご検討を支援しています。ご希望に沿った設備活用の最適化・安全対策・資金調達まで一貫してご支援いたします。

無料でご相談を承ります。

詳細は以下の JCOAL のホームページの URL よりご参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/news/2026/0825.html>

■ カーボンプライシング入門（29）を当機構 HP に掲載

カーボンプライシング入門(29) 2026 年度開始の排出枠取引制度(3)

(概要の紹介)

2026 年 4 月 1 日に施行された排出枠取引制度について、全 3 回で制度の概要と事業者の対応における注意点を説明いたします。第 1 回では制度全体の概要と、既往の制度対応で活用できる点を、第 2 回では、2026 年度内に行うべき年度平均排出量の届出、移行計画の提出等の詳細を説明しました。最終回となる第 3 回では、2027 年度以降に行うべきことである排出目標量の設定、排出実績量の算定・報告の基本用語及び未制定規定の今後の予定について解説いたします。

1. 排出目標量の設定と排出実績量算定の基本事項

2027 年度以降に対象事業者の主な実施義務となる、排出目標量の設定と排出実績量算定の基本事項について説明します。実施義務として、① 排出目標量の設定、その届出、② 排出実績量の算定、その報告、③ 割り当てられた排出枠の保有があります。①及び②は登録確認機関の確認を受けなければなりません。

前 3 年度平均排出量の届出、移行計画の提出は 2026 年度以降毎年度行うものです。また、2026 年度の排出実績量の算定のために対象事業者は 2026 年 4 月 1 日以降の排出量の測定・記録を既に始めていなければなりません。

2. 今後の制度運用・詳細設計に関する論点

現在、GX 推進法の下に法施行のための政令、省令、実施指針(施行規則)が定められ、施行されていますが、未規定の事項もあり、政府内では引き続き検討が行われています。

取引市場流動性に関しては、排出枠の保有義務に関係するバンキング、ボローイングの可否や事業者以外に金融機関などのマーケットメイカー(常時売買注文を出して市場の流動性を高める参加者)の取引参加条件を決めるための検討が進められています。

登録確認機関による確認に関する保証水準については、先行する諸外国の ETS でそうであったように、厳密さの低い限定的保証から合理的保証に移行することになっています。

詳細は JCOAL 会員ページをご参照ください。

<https://www.jcoal.or.jp/member/country/29.html>

■ 開催報告：夏休みこども石炭実験教室

例年、広報活動の一環として、クリーン・コール・デー実行委員会と科学技術館との共催で実施している「夏休みこども石炭実験教室」を、8月5日(水)、6日(木)の2日間、科学技術館で開催した。

ホームページを通じて小中学生の参加者を募集したところ、募集人員を大きく上回る 179 名の応募があり、抽選の結果、小中学生 96 名に参加いただいた。また、保護者 78 名にも同行して頂き、合計 174 名に参加いただいた。

実験教室では、石炭の性状や生成過程、賦存状況や生産方法、用途等について各種石炭の実物や動画、スライドを使って説明した後、実際に一人一人卓上の石炭を触って重さや硬さを学んでもらった。更に、①石炭と岩石とを重液を使って選び分ける選炭実験、②やかんの水を沸騰させて作る蒸気により、プロペラを回して電気を起こす発電実験、③実際に石炭を燃やして臭いや煙を感じてもらおう石炭燃焼実験を実施し、子どもたちに体験してもらった。

教室の進行と解説、実験の指導は科学技術館の学芸員が担当したが、クリーン・コール・テクノロジー、地球温暖化防止に向けたカーボンニュートラルやカーボンリサイクルなどについては当機構の職員が解説した。実験教室の最後にはミニクイズを行い、全6問の 3 択クイズに答えてもらったが、ほぼ全員が正解の選択肢に手を挙げており、石炭に関する知識が得られたようだった。

各回約 1 時間の実験教室であったが、小学 1 年生など低学年の子どもたちも含めて、参加者全員が最後まで熱心に耳を傾け、クイズにも活発に答えてくれるなど石炭に興味を持ってもらえたようだ。子どものみならず、保護者も実験や説明を熱心に見学し、実験教室終了後には指導員に質問をする姿も見受けられた。

応募いただいたにもかかわらず抽選の結果、ご参加いただけなかった皆様には心よりお詫び申し上げます。あわせて、開催に多大なるご協力を賜りました科学技術館関係者の皆様に、改めて感謝の意を表す。



実験教室の様子



選炭実験



石炭燃焼実験

■ 【第 35 回クリーン・コール・デー国際会議・資源の安定供給と脱炭素化シンポジウム 2026 開催迫る(登録〆切:9 月 1 日 12 時)！】

9 月 3 日・4 日に開催が迫りました第 35 回クリーン・コール・デー国際会議・資源の安定供給と脱炭素化シンポジウム 2026 は、登録〆切は 9 月 1 日 12 時(オンライン参加のみ)となっております。

開催後 1 か月間のアーカイブ配信を致しますが、登録がされていないとアーカイブ配信に参加できませんので、期限内にぜひとも以下の URL よりご登録をお願い致します。

<https://ccd2026.jp/>

なお、本会議の目玉は、米国から政府はもちろんのこと民間企業も多数来日登壇されること、また、南アフリカ共和国から鉱業協会の CEO が来日されること、駐日豪州大使閣下の登壇があることです。海外からの多くの皆様とぜひともこの機会に人脈を作りませんか。

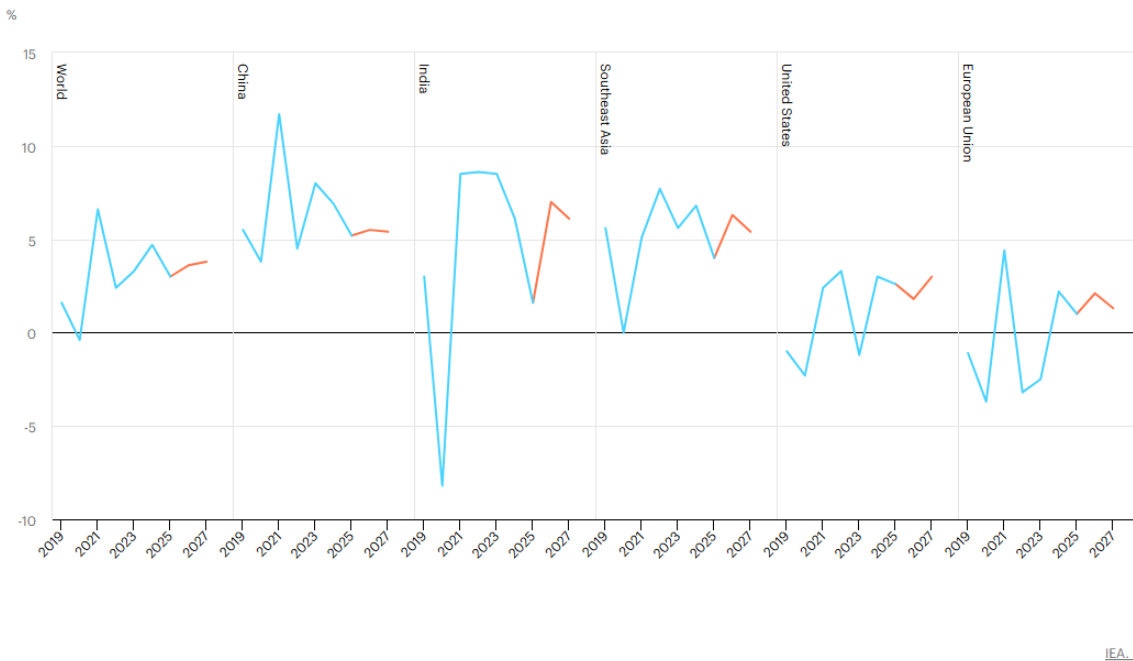
皆様のご参加をお待ちしております。

今月の Topics

■ IEA 2026 年電力中間報告書について

国際エネルギー機関(IEA)は今年 7 月 23 日、世界の電力需要、電源別発電量、発電に伴う CO2 排出量などの動向を網羅した、2026 年電力中間報告書を発表した。

この報告書では、中東危機が一時的に発電コストを押し上げたことで、世界の電力需要は 2025 年よりも速いペースで増加する見込みであると報告している。電力需要は今後も増加し、2026 年に 3.6%、2027 年には 3.8%に達すると予測されている。その要因としては、エアコン、ヒートポンプ、電気自動車の普及の加速、データセンターの増加などが挙げられる。



IEA, Licence: CC BY 4.0

図 1 2019 年から 2027 年までの選定地域における電力需要の前年比変化率
(赤線は 2026 年以降の予測)

発電量の内訳について、再生可能エネルギーは 2025 年に石炭とほぼ同等の水準に達した後、2026 年には 8%以上の成長が予測されており、同年に石炭火力を上回る見込みである。風力や太陽光発電などの再生可能エネルギーのシェア増加を既存の電力システムに統合し、安定供給を維持するためには、電力網の拡張と近代化、システムの柔軟性向上、立地価格シグナルの強化、既存インフラの効率的な利用が不可欠となる。

本報告書では、再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、欧州や豪州など複数の市場でマイナス価格が常態化しつつあることが指摘されている。一方、蓄電池や需要応答などの柔軟性資源の導入が進む地域では、こうした課題が緩和される傾向もみられるとしている。



IEA, Licence: CC BY 4.0

● 石炭 ● ガス ○ その他の非再生可能エネルギー ● 原子力 ● 水力発電 ● その他の再生可能エネルギー ● 太陽光発電
● 風 ● 純変化

図 2 2019 年から 2027 年までの電力供給源別年変化(その他の非再生可能エネルギーには、石油、廃棄物、その他の再生不可能なエネルギー源が含まれる)

世界の石炭火力発電量は、2025 年はほぼ横ばいだったが、2026 年には 1.4%増加すると予想されている。この増加は、中東のホルムズ危機に伴うガス価格の高騰により多くの市場でガスから石炭への燃料転換が進んだこと、天候の影響、そして一部地域における再生可能エネルギーの出力抑制率の上昇により、石炭火力発電所の稼働率が増加したことなどが複合的に影響している。

海外ニュース

■ 豪州： BMA の今後の展望は？

BHP と三菱商事の合併会社である BMA は、クィーンズランド州の世界最高水準の石炭ロイヤルティにより収益性が大きく悪化している。2025 年度は投下資本利益率(ROCE)が 0%となり、利益を大きく上回るロイヤルティ負担を背景に Saraji South 炭鉱や訓練施設を閉鎖した。

一方で、2025/26 年度後半には中国の炭鉱事故による供給不足や海上輸送される原料炭需要の回復を受け、原料炭価格は 28%上昇した。インドの銑鉄・鉄鋼生産も堅調で、BHP は中長期的な市場について引き続き強気の見通しを示している。

新 CEO のブランドン・クレイグ氏は、ボーエン盆地を世界有数の原料炭資源と位置付け、鉱山設計の改善、生産性向上、自動化などの技術導入により BMA の競争力を回復させる方針を示した。また、クィーンズランド州政府とはロイヤルティ制度の見直しを継続的に協議し、BMA を BHP の中核事業として再建する考えを強調している。

(出典:Australia's Mining Monthly)

■ 豪州： Duratec 社が NSW 州に Orica 社の水素ハブを建設へ

豪州のインフラ建設会社 Duratec は、総額 7,000 万豪ドルの 4 件の契約を受注し、その中には Orica がニューサウスウェールズ州で建設するハンターバレー水素ハブが含まれる。同プロジェクトは 7 月初めに最終投資決定(FID)を受けた。

水素ハブは Kooragang Island にある Orica の既存アンモニア工場に併設され、年間 4,700 トンの再生可能水素を生産する計画。これにより、年間約 2 万 6,600 トンの低炭素アンモニアを製造するとともに、天然ガス原料の使用量を約 7.5%削減する見込みである。建設は 2026 年後半に開始され、総事業費は 2 億 4,500 万～2 億 8,300 万豪ドル、商業運転開始は 2029 年初めを予定している。なお、本事業は豪州再生可能エネルギー庁(ARENA)の支援を受けている。

Duratec は、この受注を脱炭素・次世代エネルギー分野への事業拡大に向けた重要な案件と位置付けており、水素関連インフラ整備への本格参入を進める方針を示した。

このほか Duratec は、Rio Tinto のノーザンテリトリー・Gove ボーキサイト輸出施設における栈橋補強・改修工事(2029 年の鉱山閉鎖に向けた資産維持)、パースの Kwinana Bulk Jetty 改修工事、パース空港の航空燃料施設拡張工事も受注しており、海洋・鉱業・エネルギー分野での事業拡大を進めている。

(出典:Australia's Mining Monthly)

■ 豪州： フォーテスキュー社のクリスマス・クリーク試験プラントで、初のグリーン鉄を生産

豪州フォーテスキュー社は、西オーストラリア州ピルバラ地域のクリスマス・クリークにあるパイロットプラントで、電気溶融炉(ESF)による初の溶融グリーンメタル(グリーン鉄)の製造に成功した。これは同社の再生可能エネルギー・グリーン水素還元技術と電気溶融炉を組み合わせ、高純度の鉄を低炭素で製造する取り組みである。

従来の製鉄では石炭を還元材として使用するため CO₂などが発生するが、フォーテスキューは水素を還元材として利用し、副生成物を水とするプロセスを想定している。今後、段階的に試運転を進め、プロセスの検証・改良・最適化を行った上で、商業規模への拡大を目指す。

同社は、ピルバラ産鉄鉱石を用いたグリーン鉄の商業規模生産はまだ実現されていないとしており、今回の初出湯を重要な節目と位置付ける。将来的には、鉄鉱石を輸出するだけでなく、豪州の豊富な再生可能エネルギーを活用して国内でグリーン鉄まで製造することで、鉄鉱石の高付加価値化と新たな産業基盤の構築を目指している。

(出典:Australia's Mining Monthly)

■ 豪州：クーラガン島で初のストライキが発生

豪州ニューサウスウェールズ州ニューカッスル港の石炭輸出ターミナルを運営する Newcastle Coal Infrastructure Group(NCIG)で、8 月 24 日午前 0 時から 2 時間、同社史上初となる法的に認められた争議行為(protected industrial action)が実施された。海運労組 MUA などの組合員が、賃金や勤務条件の改善を求めてストライキに入ったもので、今後も業務制限や断続的なストが計画されており、石炭荷役の生産性への影響が懸念されている。

労組によると、会社側が提示した労働協約案は従業員の 98%が反対して否決された。労働者側は、①より公平な勤務シフト、②祝日勤務の割増賃金、③生活上昇に見合った賃上げを要求している。また、近隣の同業施設と比べて NCIG 従業員の賃金・労働条件が低いと主張している。

MUA は、NCIG の労働条件には 16 年以上にわたり、ハワード政権下の Work Choices(2005 年労使関係法改正)時代の制度的な影響が残っていると批判している。同法は労組の権利を制限し、雇用主の権限を強化したもので、2009 年に Fair Work Act へ置き換えられた。

一方、NCIG 側は、労使交渉を誠実に進めており、インフレ率を上回る賃上げを含む競争力のある条件を提示していると説明。争議行為を行う権利は尊重するとしながら、顧客への安全で安定したサービスを維持しつつ、労組との協議を継続する方針を示している。

■ 中国：中国が石炭産業発展第 15 次五カ年計画を発表

中国国家発展改革委員会と国家能源局は 8 月 10 日、「石炭産業発展第 15 次五カ年計画」を発表した。同計画は、エネルギー安全保障とグリーン転換の両立を掲げ、石炭産業の近代化、供給基盤の集約、AI によるスマート化などを重点的に進める方針である。

特に、山西省、内モンゴル西部・東部、陝西省北部、新疆の 5 大石炭供給保障基地を重点的に整備し、大規模・近代的炭鉱の建設を進める。2030 年には、この 5 大基地の石炭生産量を全国の 80%以上とする計画である。また、新規生産能力は国の「統一生産能力台帳」に組み入れた上で実施し、生産能力置換政策を厳格に適用するなど、総生産能力を管理する。

第 15 次五カ年計画期間中には中国の石炭消費がピークを迎える見込まれる一方、再生可能エネルギーの大量導入に伴う出力変動や地域的な需給不均衡に対応するため、石炭は引き続きエネルギー安定供給の「礎石」「安定装置」として重要な役割を担うと位置付けられている。2026 年上期の中国の原炭生産量は 23.7 億トン、日量平均 1,307 万トンと、同期として過去 2 番目の高水準となった。

また、計画では探査・設計、採掘、生産、設備保守、安全管理まで AI を体系的に活用する「AI +」を石炭産業に導入する。石炭分野専用の大規模 AI モデル、知能化掘進、自動運搬、ロボット作業などを導入し、特に災害リスクの高い炭鉱のスマート化を重点的に進め、坑内作業員の削減と安全性・生産効率・資源回収率の向上を図る。

さらに、AI 活用は採炭だけでなく、石炭化学では選炭・ガス化・合成工程の最適化による省エネ・コスト削減、石炭火力では燃焼・タービン運転の最適化や需給予測による調整力向上にも広げる。これにより、石炭を単なる化石燃料ではなく、再エネ大量導入を支えるクリーン・高効率・低炭素型の安定供給・調整

電源へ転換していく方針が示されている。

(出典: SunSirs)

■ カナダ: 石炭火力発電はユーコン準州のエネルギー不足を緩和する可能性がある

ストラテジック・メタルズ社は、カナダのユーコン準州南中部に位置するディビジョン・マウンテン・コール・プロジェクトに関する 2 つの報告書を発表した。1 つは 100 メガワット(MW)または 2 基の 50MW 発電所建設の可能性を検討する評価報告書、もう 1 つは露天掘り炭鉱の設計・評価を目的とした予備経済評価(PEA)報告書である。

ディビジョン・マウンテンには、高揮発性 B 級瀝青炭の 5,250 万トンの精測資源量が確認されているほか、ボーリング調査により確認されたその他の石炭賦存箇所がある。ストラテジック・メタルズ社は子会社である Yukon Energy Solutions(YES)を通じて、ディビジョン・マウンテンの露天掘り鉱山からの石炭を用いて石炭火力発電所を開発する可能性を模索している。目的は、ユーコン準州の深刻な電力不足に対応するためである。

発電所評価報告書は、石炭火力発電所が暖房用の温水や建設業界で使用されるフライアッシュなど、貴重な副産物を生み出す可能性がある」と指摘している。石炭火力発電所の CO₂ 排出は、もし温水が建物や温室、その他の構造物の暖房に使われれば、実質的な CO₂ 排出量を、LNG やディーゼルによる排出量よりも抑えることができるほどのカーボンクレジットが得られる可能性がある。ディビジョン・マウンテンでの炭素回収および隔離の利用についても議論が進められている。

2 つ目の PEA 報告書では、石炭資源の計算、30 年間 50 万トンのクリーンコールを供給できる露天掘り鉱山と処理工場の設計、そしてその鉱山の資本および運営コストの見積もりが行われた。PEA は、クリーンコールを発電所に平均運用コスト 52 ドル/トンで供給でき、採掘は廃土と原炭の平均剥土比 3.5 で行えると結論づけた。発電所および関連インフラの資本コストは 8 億 5,660 万ドルで、発電所と電力網を接続する送電線の建設等も含まれる。

ユーコン準州では水力発電が主力だが、近年は冬季の住宅、サービス業、鉱山需要の増加に供給が追いついていない。地元の電力会社は電力需要の不足を補うために、ディーゼルや LNG 発電機を活用せざるを得なくなった。これらの発電機で使われる輸入ディーゼルや LNG は領土外から購入され、トラックでユーコン準州まで運ばれているため、電気料金が高くなり、資本の流出や高速道路のトラック交通量が大幅に増加している。

ストラテジック・メタルズ社と YES は地元産の石炭を代替燃料として、発電の可能性を評価することとした。また、ディビジョン・マウンテン鉱床は、約 100MW の発電所を約 105 年間供給可能な石炭が賦存し、必要に応じて年間生産量を拡大することも可能であるとしている。

ストラテジック・メタルズ社長兼 CEO のダグ・イートン氏は「ストラテジック・メタルズ社と YES は、ディビジョン・マウンテン・プロジェクトが高価な輸入炭化水素燃料に代わる経済的かつ環境的に実現可能な代替手段を、ユーコン準州に提供する」「ディビジョン・マウンテン石炭を使った発電は、住宅および工業利用者の電気料金を削減し、ディーゼルや LNG の輸入に伴う不安定なサプライチェーンや資本流出を排除し、石炭火力発電所からの温水を温室やその他のインフラの暖房に使うことで、食料供給の自給性を高めていくだろう」と述べている。

(出典: Carbon Capture Journal)

■ トルコ: 科学者たちは AI を活用して、より効率的な炭素回収材料を見つけ出している

トルコのコチ大学の研究者たちは、高性能な膜材料を数秒で特定できる、AI を用いた新しい手法を開発した。

化学・生物工学科のセダ・ケスキン・アヴチ教授と修士課程のフェリデ・ネヴァ・ユングル氏は、多くの金属有機フレームワーク(MOF)とポリマーの組み合わせが、現在使用されている従来の膜を上回ることを示すツールを開発した。

この研究は Nature Portfolio 誌「Communications Materials」に掲載され、研究者たちは 8,683 種類の異なる MOF と 12 種類のポリマーを組み合わせ、合計 104,196 種類の材料の組み合わせを評価した。AI モデルは、数か月かかる可能性のある実験室での評価プロセスを数秒に短縮し、CO₂ を他の気体から分離する可能性が最も高い材料の組み合わせを特定した。

研究者たちは AI モデルとデータセットを科学コミュニティに公開しており、炭素回収、天然ガス浄化、水素生成のための、より効率的な膜の開発を更に加速させる可能性を秘めている。

(出典: *Carbon Capture Journal*)

■ 世界：海外の Coal & Energy 会議情報

◆Electra Mining Africa 2026

07 September 2026 - 11 September 2026, Southern Africa

<https://www.worldcoal.com/events/electra-mining-africa-2026/>

◆Eurocoke Summit 2026

16 September 2026 - 17 September 2026, Barcelona, Spain

<https://www.worldcoal.com/events/eurocoke-summit-2026/>

◆ICOE Conference

17 - 19 Sep 2026, Melbourne, Australia

<https://10times.com/e1k2-d8pd-0hd5>

◆China Shale Gas Summit (CSGS)

21 - 22 Sep 2026, Chengdu, China

<https://10times.com/e1hr-51zp-4z3p-g-china-shale-gas-summit>

◆CT Asia 2026

September 27-29, 2026, Bali, Indonesia

<https://www.fastmarkets.com/coaltrans/>

◆Clean Energy, Restored Lands: The Path Forward for Coal Regions

29 Sep 2026, Virtual Conference

<https://10times.com/e1g3-257d-hfxh-r-clean-energy-restored-lands-path-forward-coal-regions>

◆Coal Association of Canada Conference

Wed, 30 Sep - Fri, 02 Oct 2026

Vancouver, Canada

<https://10times.com/coal-association-canada>

◆WORLD ENERGY CONGRESS 2026

12-15 Oct 2026

Riyadh, Saudi Arabia

<https://worldenergycongress.org/>

◆Met Coke World Summit 2026

Coming Soon

<https://www.metcokemarkets.com/metcoke>

■ グローバル：世界粗鋼生産(2026 年 7 月)

World Steel Association 2026 年 7 月の世界粗鋼生産量(世界 70 カ国)

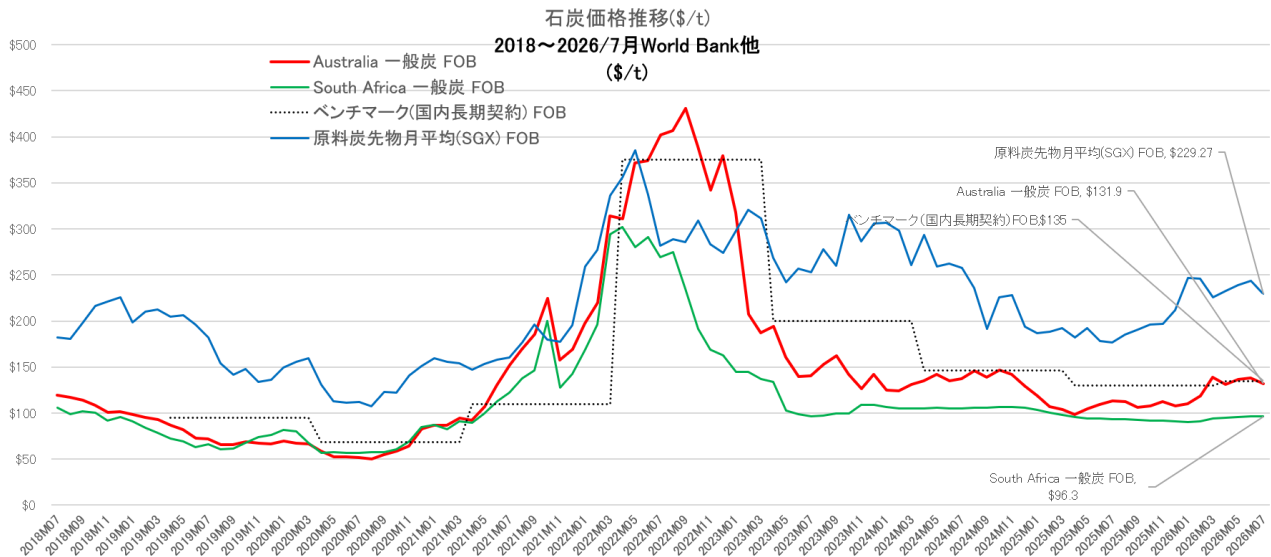
1 億 4,920 万トン(前年同月比-0.3%)

鉄鋼生産国上位 10 カ国の 7 月生産量

	生産量 (百万トン)	前年同月比 (%)	1～7 月合計 (百万トン)	1～7 月前年比 (%)
中国	76.9	-3.6	577	-3.1
インド	14.4	1.9	101.1	6.1
アメリカ	7.4	4.4	50.2	6
日本	6.9	0.4	47.3	-0.3
ロシア(e)	5.7	3.3	38.1	-6.1
韓国	5.7	6.4	37.4	2.7
トルコ	3.4	7	23.2	7.9
ドイツ	2.8	3	21.4	8.1
ブラジル	2.8	0.1	19.1	-1.2
ベトナム	2.7	34.7	17.9	28

(e) : estimated

石炭価格推移



日本の炭種別石炭輸入量統計

(単位:トン)

年月	無煙炭	原料炭	一般炭	計
2025 年 7 月	273,255	5,748,480	9,700,338	15,722,073
2025 年 8 月	305,677	5,356,775	10,519,625	16,182,077
2025 年 9 月	382,983	4,876,529	8,356,315	13,615,827
2025 年 10 月	245,494	4,962,466	9,318,864	14,526,824
2025 年 11 月	391,187	3,856,412	8,671,166	12,918,765
2025 年 12 月	318,735	4,975,382	9,344,681	14,638,798
2026 年 1 月	311,144	5,493,694	9,894,942	15,699,780
2026 年 2 月	238,160	4,666,152	8,735,281	13,639,593
2026 年 3 月	247,879	4,122,155	8,492,540	12,862,574
2026 年 4 月	246,791	4,769,559	7,102,007	12,118,357
2026 年 5 月	590,530	4,349,762	6,601,125	11,541,417
2026 年 6 月	343,405	4,263,695	7,147,875	11,754,975
2026 年 7 月	447,087	5,609,403	8,815,774	14,872,264

出典:財務省貿易統計

※2025 年の統計は 2026 年 11 月に確定となるため、その間修正が入ります。

アンケートへのご協力お願い

CF マガジンのご愛読を頂きありがとうございます。

読者のニーズにお応えできる誌面づくりを目指しておりますので、皆様からのご感想をお聞かせください。各ページ右下にアンケート用紙へジャンプするリンクを埋め込んでおります。短時間でご回答いただけますので、各ニュースへのご感想、取り上げてほしい題材、マガジンの構成等、どのようなご意見でも頂戴できると幸いです。

独り言

JCOAL の X(旧ツイッター)を運用していると、ときどき予想外の投稿に多くの反応をいただくことがある。[ゴジラに関する投稿](#)や、「[太平洋炭鉱の知人船積場立坑構想図](#)」の投稿もその一つだった。発信する側としては、「これは多くの人に興味を持ってもらえるのでは」と考えて投稿するのだが、実際に反応があるとは限らない。その一方で、自分ではディープな話題だと思っていたものが、多くの人の目に留まることもある。

SNS の世界では、何が注目されるのかを完全に予測するのは難しい。しかし、それだからこそ面白いのかもしれない。石炭というテーマにも、まだ自分たちが気づいていない「誰かの興味の入口」があるのだろう。これからも、少し意外な話題を探してみたい。≈NKN≈